



天鏡閣

国指定重要文化財

明治の香り、今に息づく。

福島県

INFORMATION (4月~11月)

天鏡閣を楽しむ・味わう

●明治のドレス
試着体験できます。
お子様用ドレスも
ございます。



●期間限定
ティールーム開設
館内食堂で季節の紅茶と
スイーツをお楽しみ下さい。



●屋外軽食コーナー
天鏡閣だけで味わえる
オリジナルメニュー
ケレー(カレー)
コロッケレー(カレーコロッケ)



天鏡閣付近の見どころ

●三万石
天鏡閣の後方に三万石と称する大きな自然石があります。この自然石に「天鏡閣記」が刻まれております。新緑、紅葉も美しく、磐梯山や猪苗代湖を一望することができ、散策に好適の所です。

●長浜

天鏡閣の目前に広がる長浜は、夏は湖水浴のメッカ。マリンスポーツや、ヨットを楽しむ人々が見られます。

●磐梯南ヶ丘牧場

天鏡閣からさらに進んでゆくと、磐梯山山麓に広がる南ヶ丘牧場があります。雄大な磐梯山を背景に、のんびりと草を食む牛の姿を見ることが出来ます。

●野口英世記念館

世界の医聖野口英世の偉業をたたえて、生家のわきに建てられ、数々の遺品や母からの手紙などが展示されています。生家も昔のまま保存されています。



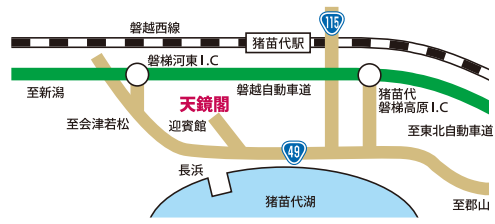
天鏡閣ご案内

●所在地 福島県耶麻郡猪苗代町大字翁沢字御殿山1048
●開館時間 5月~10月/8:30~17:00(最終入場16:30)
11月~4月/9:00~16:30(最終入場16:00)
(年中無休)

●入館料

区分	一般	高校生	小・中学生
個人	370円	210円	100円
団体 20名以上	320円	160円	80円

●駐車場 バス9台 乗用車31台
●交通



●鉄道 磐越西線猪苗代駅下車・駅前より会津バスで約9分 長浜下車・徒歩約10分。
●自動車 《東京・東北方面より》
磐越自動車道、猪苗代磐梯高原I.Cから国道49号を会津若松方面へ約8km。
《新潟方面より》
磐越自動車道、磐梯河東I.Cから国道49号を郡山方面へ約11km。

お問合せ先
天鏡閣 TEL・FAX (0242) 65-2811



<記念スタンプ>



明治の香りを 今に伝える

天鏡閣

○明治40年8月、有栖川宮威仁親王殿下が東北地方御旅行中、猪苗代湖畔を巡遊され、その風光の美しさを賞せられてこの地に御別邸を建設することを決定されました。

○明治41年春、雪解けを待つて工を起し、同年8月竣工。翌9月、皇太子嘉仁親王殿下（大正天皇）の行啓があり、同御別邸を「天鏡閣」と命名されました。

○大正13年6月、高松宮宣仁親王殿下、有栖川宮の祭祀を継承するとともに、天鏡閣も同親王殿下に引き継がれました。

○昭和27年12月、高松宮宣仁親王殿下より、天鏡閣、和風御別邸（現、県迎賓館）、御別邸敷地（山林を含む約九八ha）が、福島県へ御下賜されました。福島県は、以後天鏡閣を会議、講習会等に利用したが、建物の老朽化に

気品ある ルネッサンス風洋風建築

本館は、二階建天然スレート葺の八角塔屋付で、外観は変化に富み、建築面積四九二㎡延面積九二七㎡、総高一七・九mとなっています。玄関を入ると中央廊下で仕切られており、南側には主要室を、北側には小室を配しています。

一階の南側には玄関より食堂、客間、撞球室を配して接客の場とし、二階の南側は東から御寝室、御座所、御居間、西客室等のプライベートな一角となっています。

別館は、平常の管理用事務所、あるいはその宿泊所として使用したものと考えられ、簡素ではあるが本館に倣った外観を呈しています。

表門は、煉瓦造りの柱門で、両開きの鉄柵扉を吊っています。

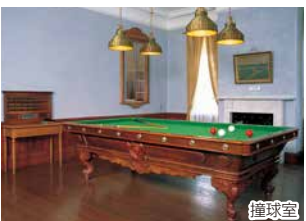
福島県は、国指定重要文化財としての修復工事を完了に伴い、家具調度品を復元し、併せて高松宮殿下から御下賜された有栖川宮殿下ゆかりの品々を館内に展示して、明治の香りを今に伝えるべく、天鏡閣を一般に開放しました。

意匠をこらした 優雅なたたずまい

鬱蒼とした樹木に囲まれた天鏡閣ですが、建築された頃は樹木も



食堂



撞球室

少なく、遠くからでもその優雅な姿を望むことができました。盤梯

より昭和46年4月より使用を中止しました。
○昭和54年2月、天鏡閣本館、別館、表門が国の重要文化財に指定されました。
○昭和55年9月、天鏡閣修復工事着工。
○昭和57年9月、修復工事完成。
○昭和59年7月、有栖川宮威仁親王銅像再建。
○昭和59年9月、昭和天皇・香淳皇后両陛下御来県。天鏡閣で御休憩されました。
○昭和61年9月、徳仁親王（皇太子）殿下が御来県。天鏡閣を御視察されました。

その名のいわれ

明治41年9月、皇太子嘉仁親王殿下（大正天皇）が翁島御別邸に行啓になり、5日間滞在されました。その際、この御別邸を「天鏡閣」と命名されましたが、これは李白の句「明湖落天鏡」に由来しております。



山と猪苗代湖を目前にひかえるこの地は、避暑や賓客のもてなしに絶好の土地柄でした。建物の内部も、それぞれの部屋ごとに、ルネッサンス様式の意匠をこらして、大変優雅な造りになっています。また、豪華なカーテンやジュタン、そして各室の天井に吊された絢爛たるシャンデリアは明治後期における皇族別邸の気品ある豪華さを物語っています。



客間

館内のみどころ

マントルピース

天鏡閣の名にふさわしく、館内には七面の鏡があります。そして鏡とともに美しい大理石の二十六个のマントルピースは、アール・ヌーヴォースタイルのもので、部屋の配置によってベアになっています。マジョリカタイルといわれるイギリス製のタイルは、主に、チュエリッップをモチーフとしており、色彩と美しい形といい、手造りならではの味わいがあります。



シャンデリア

各室のシャンデリアの中でも、一番豪華な雰囲気のあるのは客間のものです。このシャンデリアはランプシェードもほかのものとは異なり、細部に凝ったデザインになっています。繊細なフィラメントに輝く光は、独特の情緒をかもし出します。

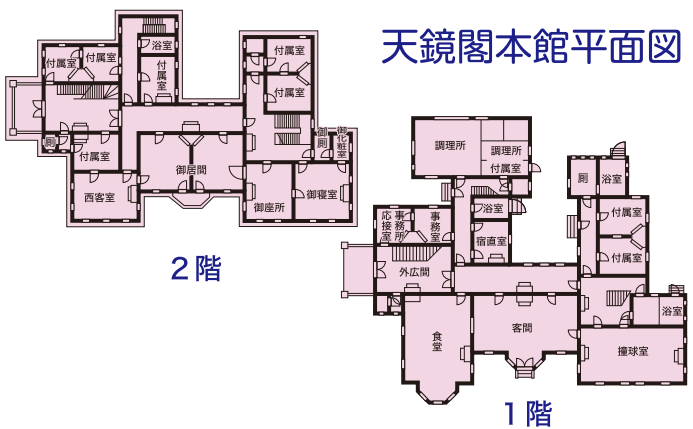


天井飾り



天井に施された円形の飾り絵。ヨーロッパの香りを伝える唐草模様が、白い天井に、美しい光の陰影をつくり出します。シャンデリアや、部屋によって、デザインに変化があります。実用のための部屋は、シンプルなデザインです。

天鏡閣本館平面図



2階

1階